



参加者の声

・40代(女性)

ゲームやテレビがよくないことはわかっていてもなかなか止めさせることができませんでした。今日の話でわが子にいろいろな症状が既に出てきていることが分かりました。帰ったら、子どもたちに話して努力していきたいと思います。

・20代(男性)

私もテレビ、テレビゲームとともに育った世代です。学生時代を振り返ってみると「ゲーム中毒」であったのではないかと思います。自分が親になる前に今日話を聞いたことを大変幸運だと感じました。自分が関わっていく子どもたち、そしてまだ見ぬ自分の子どもとの接し方に今日話を参考にさせていただきます。

・30代(女性)

わが家での子育てのあり方を夫婦で考えてみようと思いました。共働き、核家族で幼児2人の家族で忙しいのですが、もう少し子どもと向き合っていこうと思います。

# テレビの見過ぎに要注意!

## 子どもたちに心のフクチン「メディア・フクチン」を!

メディアとの接触で子どもたちに起こる影響を学ぼうと、7月1日(土)、健康教育講演会が開かれました。講師は仙台医療センター小児科医長(元鳥取大学医学部小児科助教授)の田澤雄作先生。約150人が参加し、熱心に話に聞き入りました。体の不調で不登校になった子どもを診察したところ、原因はテレビゲームによる慢性疲労であったこと、1週間テレビ、ゲームを止めたら元気になり登校できたことなど、過剰なメディアとの接触が子どもに与える弊害を写真を交えて話されました。

子どもの目に限がある、笑顔が少ない、両手で体を支える、背中が丸いなどの症状はありませんか? これは慢性疲労のサインです。テレビを消してのんびり過ごす時間を作りましょう。なお、幼児教育課では、保育所参観日や就学時検診などを活用し、子どもの成長段階に応じた子育て、家庭教育の学習機会として「子育て講座」を開催しています。時期は、広報紙や防災無線などでお知らせしますのでご参加ください。

# 初めての抹茶の味は?

高麗保育所では地域の人とふれあおうと、今年度から、公民館サークルや、近くの介護施設と交流活動を始めました。

7月5日(水)は、公民館サークル「お茶をたしなむ会」(山根勝江代表)のみなさんが保育所を訪れ、園児にお茶をふるまいました。初めて味わう抹茶のほろ苦さに驚く園児もいましたが、全部飲み終わると「泡が苦かったけど、おいしかった。今

度は混ぜてみたい」と次のお茶会が楽しみの方でした。西田恵子所長は、「今後もこの交流を続けて、1年たったころに、園児同士がお茶をたてあえるようになれば」と話していました。



「まずは作法より、楽しんで飲むこと」と話す山根勝江さん



少し薄めのお茶ですが、やはり苦かったよう